ちょっと知りたい 医学の豆知識

喘息について

内科医師　長山　直弘

喘息は発作性に呼吸が苦しくなって、呼気や吸気がし難くなる病気です。呼吸のたびにゼイゼイ、ヒューヒューといった音がする喘鳴(ぜんめい)と呼ばれる症状が起こってきたりします。これらは気管支が狭くなるから起こってくる症状なのですが、狭くなる原因は気管支における炎症にあります。

その炎症には、乳幼児期に発症する「小児喘息」ではアレルギー性機序が関与していることが多いのですが、「成人期以降に発症する喘息」ではアレルゲン物質に起因しない炎症の割合が高くなります。自動車、タバコ、工場などの煙による大気汚染、感冒などの呼吸器感染症、ストレス、寒気、運動などが原因となる炎症が多くなります。

治療には気管支の炎症を抑えるために吸入ステロイドが主に使用されます。

感冒自体は治っているのに咳だけが出続ける、という症状が数週間続く場合には「咳喘息」の可能性があります。気管支の炎症によって呼吸困難発作が起こるのではなくて、咳発作が起こるのです。男性よりも女性に多く、再発し易い、といった特徴があります。治療は喘息の場合と同じで、気管支拡張薬や吸入ステロイドを使います。喘息に移行させないように確実に治療することが大切です。

高齢者の場合には、咳や呼吸困難発作を起こす疾患が他にもたくさんありますので、喘息が疑われても、他の疾患を鑑別することは重要です。鑑別するべき疾患としては、COPD(慢性閉塞性肺疾患)、うっ血性心不全、肺癌、逆流性食道炎、肺結核後遺症、気管支拡張症、上気道閉塞、誤嚥、過換気症候群、パニック障害などがあります。特にCOPDに関しては,「高齢者喘息」と鑑別を要する重要な疾患であるとともに、合併(オーバーラップ)することが多いです。

呼吸困難や長引く咳のある人は一度受診なさって下さい。